

1. アウトラインについて

必ず文字のアウトラインをとってください。

アウトライン化された文字は通常のプリンタでは太くつぶれてプリントされる場合がありますが、高解像度での出力・印刷では、きれいな問題のない状態になります。

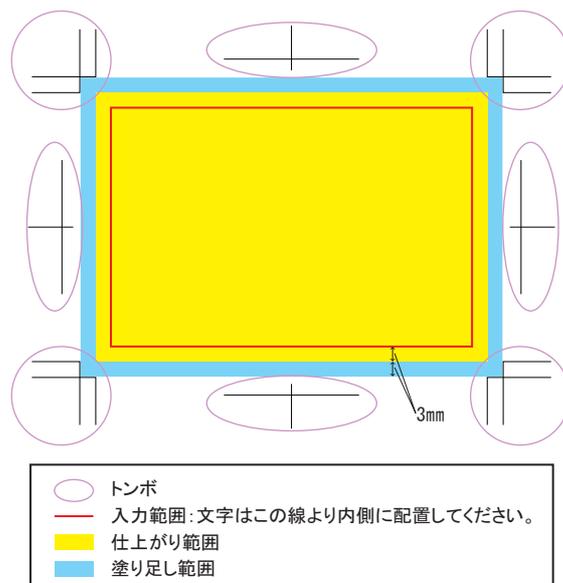
なお、PDFはフォントを埋め込むことができますが、フォント回りでのエラーを避けるため、原則アウトラインPDFとしてください。

1. トンボについて

図のようなダブルトンボ(Lがずれたような形で、線が2本ずつ)の場合ですと、四隅のトンボを全て繋ぐと2つの枠ができます。

内側の黄色い枠が仕上がりラインとなりますが、その少し外側にもひとまわり大きなラインで囲まれる水色の枠があることが分かります。

この、仕上がり枠から、ひとまわり大きな枠までの部分を「塗り足し」と呼びます。



3. 印刷範囲と塗り足しについて

紙端ギリギリまで塗りがある場合は天・地・左・右3mmずつ塗り足してください。

塗り足しは断裁時のズレにより「地色」が出るのを防ぐためです。

中に入る文字などは仕上がり範囲ギリギリに配置しないでください。断裁時に切れる恐れがあります。入力範囲内(仕上がり範囲より内側3mm)に配置してください。

4. カラー設定について

スポットカラー・特色などは使用せず、したとしても最後に必ずプロセスカラー(CMYK)に変換してください。

印刷はCMYKで行いますので、RGBでは色目が変わる場合があります。

5. 貼りこみ画像について

画像はCMYKモード、解像度は必要なサイズの時に350dpi以上で作成(リンク・貼り付け)してください。

6. 見本について

トラブルを避けるためにも、仕上り見本(PDFファイルまたはJPGファイル)を必ず添付してください。

データ作成時の注意点

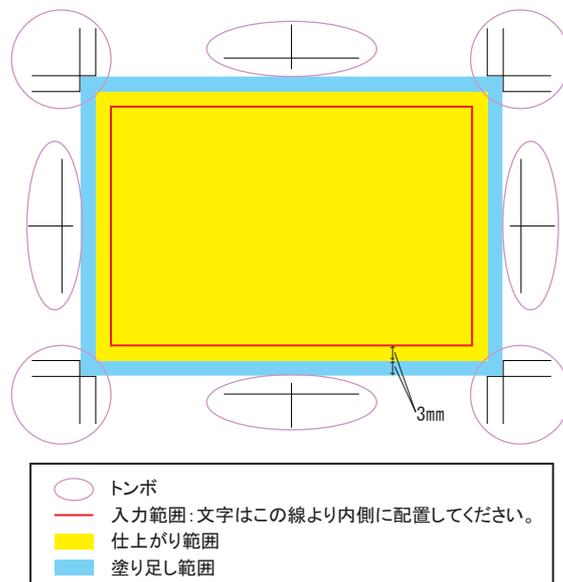
【ワード編】

1. トンボについて

図のようなダブルトンボ(Lがずれたような形で、線が2本ずつ)の場合ですと、四隅のトンボを全て繋ぐと2つの枠ができます。

内側の黄色い枠が仕上がりラインとなりますが、その少し外側にもひとまわり大きなラインで囲まれる水色の枠があることが分かります。

この、仕上り枠から、ひとまわり大きな枠までの部分を「塗り足し」と呼びます。



2. 印刷範囲と塗り足しについて

紙端ギリギリまで塗りがある場合は天・地・左・右3mmずつ塗り足してください。

塗り足しは断裁時のズレにより「地色」が出るのを防ぐためです。

中に入る文字などは仕上がり範囲ギリギリに配置しないでください。断裁時に切れる恐れがあります。入力範囲内(仕上がり範囲より内側3mm)に配置してください。

3. 貼りこみ画像について

画像の解像度は必要なサイズの時に350dpi以上で作成してください。低い解像度の画像を使われますと、仕上り時に画像が荒れる場合がございます。

4. 入稿データについて

Wordで作成されたデータは必ずPDFで保存して入稿をお願いします。Wordデータのままですと、文字化けする場合がございます。